

食糧管理法ノ一部施行期日ノ件

(昭和十七年十二月二十三日)
(勅令第八百四十六號)

食糧管理法第八條及第三十五條第一號第二號ノ規定ハ昭和十七年十二月二十五日ヨリ、同法第三十七條ノ規定ハ同法第三十五條第一號第二號ノ規定ニ關係アル範圍内ニ於テ同日ヨリ之ヲ施行ス

〔參照〕

昭和十七年二月二十日法律第四十號食糧管理法抄録

第三條第一項 米穀、大麥、粟麥又ハ小麥（以下米

麥ト稱ス）ノ生産者又ハ土地ニ付權利ヲ有シ小作

料トシテ之ヲ受クル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ其

ノ生産シ又ハ小作料トシテ受ケタル米麥ニシテ命

令ヲ以テ定ムルモノヲ政府ニ賣渡スベシ

第八條 第三條第一項ノ者ハ同項ノ規定ニ依リ其ノ

者ガ政府ニ賣渡スベキ米麥ニ付命令ノ定ムル所ニ

依リ検査ヲ受クベシ但シ勅令ヲ以テ定ムル場合ハ

此ノ限ニ在ラズ

政府ハ必要アリト認ムルトキハ前項ノ検査ノ外勅

令ノ定ムル所ニ依リ主要食糧ニ付検査ヲ受クベキ

コトヲ命ズルコトヲ得

第三十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ千圓以下

ノ罰金ニ處ス

一 不正ノ手段ニ依リ第八條ノ規定ニ依ル検査ヲ

受ケ又ハ受ケントシタル者

二 第八條第二項ノ規定ニ依ル検査ヲ受ケザル者

第三十七條 法人ノ代表者又ハ法人若ハ人ノ代理人

使用人其ノ他ノ従業者其ノ法人又ハ人ノ業務ニ關

シ第三十一條、第三十二條、第三十四條又ハ第三

朝鮮農地開發營團令ノ公布

朝鮮農地開發營團令ハ昭和十七年十二月二十七日付官報を以て左ノ如ク公布せられた。

朝鮮農地開發營團令 (昭和十七年十二月八日)
(勅令第三十四號)

第一條 朝鮮農地開發營團ハ重要農産物ノ増産ヲ圖ル爲

必要ナル農地ノ開發ニ關スル事業ヲ行フコトヲ目的トス

朝鮮農地開發營團ハ法人トス

第二條 朝鮮農地開發營團ハ其ノ主タル事務所ヲ京城府ニ置ク

朝鮮農地開發營團ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ必要ノ地

ニ從タル事務所ヲ設置スルコトヲ得

第三條 朝鮮農地開發營團ノ資本ハ千萬圓トシ之ヲ十

萬圓ニ分チ一口ノ出資金額ヲ百圓トス但シ資本ハ朝

鮮總督ノ認可ヲ受ケ之ヲ増加スルコトヲ得

第四條 朝鮮農地開發營團ノ出資者ハ政府、公共團

體、帝國臣民又ハ帝國法人ニシテ社員、株主若ハ業

務ヲ執行スル役員ノ半數以上、資本ノ半額以上若ハ

議決權ノ過半數ガ外國人若ハ外國法人ニ屬セザルモ

ノタルコトヲ要ス

第五條 朝鮮農地開發營團ハ出資ニ對シ出資證券ヲ發

行ス

出資證券ニ關シ必要ナル事項ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第六條 政府ノ引受ケタル出資ノ出資金拂込ハ其ノ他

ノ出資ノ出資金拂込ト之ヲ異ニスルコトヲ得

第七條 朝鮮農地開發營團ノ出資者ノ責任ハ其ノ出資

額ヲ限度トス

出資者ハ朝鮮農地開發營團ニ拂込ムベキ出資額ニ付

相殺ヲ以テ之ニ對抗スルコトヲ得ス

第八條 出資者ハ朝鮮農地開發營團ノ承認ヲ經テ其ノ

持分ヲ讓渡スルコトヲ得

第九條 拂込ヲ怠リタル出資者ニ對シ朝鮮農地開發營

團ガ一月以上ノ相當ノ期間ヲ定メ拂込ノ請求ヲ爲シ

タルニ拘ラズ出資者ガ拂込ヲ爲サザルトキハ朝鮮農

地開發營團ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ其ノ出資者ノ持

分ヲ處分スルコトヲ得

朝鮮農地開發營團ハ持分ノ處分ニ依リテ得タル金額

ヨリ滞納金額及定款ヲ以テ定メタル違約金ノ額ヲ控

除シタル金額ヲ從前ノ出資者ニ拂戻スコトヲ要ス

持分ノ處分ニ依リテ得タル金額ガ滞納金額ニ滿タザ

ル場合ニ於テハ朝鮮農地開發營團ハ從前ノ出資者ニ

對シ不足額ノ辨濟ヲ請求スルコトヲ得

前三項ノ規定ハ朝鮮農地開發營團ガ損害賠償及定款

ヲ以テ定メタル違約金ノ請求ヲ爲スコトヲ妨ゲズ

出資者ガ第一項ノ期間内ニ拂込ヲ爲サザルトキハ朝

鮮農地開發營團ハ其ノ出資者ニ對シ二週間以内ニ出

資證券ヲ朝鮮農地開發營團ニ提出スベキ旨ヲ通知ス

ルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テ提出ナキ出資證券ハ其

ノ效力ヲ失フ

前項ノ場合ニ於テハ朝鮮農地開發營團ハ遲滞ナク失

效シタル出資證券ノ番號並ニ其ノ出資者ノ氏名及住

所ヲ公告スルコトヲ要ス

第十條 朝鮮農地開發營團ハ定款ヲ以テ左ノ事項ヲ規

定スベシ

一 目的

二 名稱

三 事務所ノ所在地

四 資本金額、出資及資産ニ關スル事項

五 役員及會議ニ關スル事項

六 業務及其ノ執行ニ關スル事項

七 朝鮮農地開發債券ノ發行ニ關スル事項

八 會計ニ關スル事項

九 公告ノ方法

定款ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ之ヲ變更スルコトヲ得

第十一條 朝鮮農地開發營團ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ

依リ登記ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依リ登記スベキ事項ハ登記ノ後ニ非ザ

レバ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ズ

第十二條 朝鮮農地開發營團ニ付解散ヲ必要トスル事

由發生シタル場合ニ於テ其ノ處置ニ關シテハ別ニ之

ヲ定ム

第十三條 朝鮮農地開發營團ニ非ザル者ハ朝鮮農地開

發營團又ハ之ニ類似スル名稱ヲ用フルコトヲ得ズ

第十四條 朝鮮民事令ニ於テ依ルコトヲ定メタル民法

第四十四條、第五十條、第五十四條、第五十五條及

第五十七條並ニ非訟事件手續法第三十五條第一項ノ

規定ハ朝鮮農地開發營團ニ之ヲ準用ス

第十五條 朝鮮農地開發營團ニ 理事長 副理事長各一

人、理事三人以上及監事二人以上ヲ置ク

第十六條 理事長ハ朝鮮農地開發營團ヲ代表シ其ノ業

務ヲ總理ス

副理事長ハ理事長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理シ

理事長缺員ノトキハ其ノ職務ヲ行フ

副理事長及理事ハ理事長ヲ輔佐シ定款ノ定ムル所ニ

依リ朝鮮農地開發營團ノ業務ヲ分掌シ又ハ之ニ參與
ス

監事ハ朝鮮農地開發營團ノ業務ヲ監査ス

第十七條 理事長、副理事長、理事及監事ハ朝鮮總督

之ヲ命ズ

理事長及副理事長ノ任期ハ五年、理事ノ任期ハ四

年、監事ノ任期ハ二年トス

第十八條 理事長、副理事長及業務ヲ分掌スル理事ハ

他ノ職業ニ従事スルコトヲ得ズ但シ朝鮮總督ノ認可

ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第十九條 朝鮮農地開發營團ニ評議員若干人ヲ置キ朝

鮮總督之ヲ命ズ

評議員ハ事業經營ニ關スル重要事項ニ付理事長ノ諮

問ニ應ジ必要アルトキハ之ニ對シ意見ヲ述ブルコト

ヲ得

評議員ハ名譽職トシ其ノ任期ハ二年トス

第二十條 朝鮮農地開發營團ハ左ノ事業ヲ行フモノト

ス

一 農地ノ造成及改良ニ關スル事業

二 前號ノ事業ニ附帶スル事業

三 其ノ他朝鮮農地開發營團ノ目的達成上必要ナル

事業

朝鮮農地開發營團前項第二號又ハ第三號ノ事業ヲ行

ハントスルトキハ朝鮮總督ノ認可ヲ受クベシ

第二十一條 朝鮮農地開發營團ハ拂込資本金額ノ五倍

ヲ限リ朝鮮農地開發債券ヲ發行スルコトヲ得

第二十二條 朝鮮農地開發債券ハ額面金額五十圓以上

トシ無記名式利札付トス但シ應募者又ハ所有者ノ請

求ニ依リ記名式ト爲スコトヲ得

第二十三條 朝鮮農地開發營團ハ朝鮮農地開發債券借

換ノ爲一時第二十一條ノ制限ニ依ラズ朝鮮農地開發

債券ヲ發行スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ朝鮮農地開發債券ヲ發行シタルト

キハ發行後一月以内ニ其ノ發行額面金額ニ相當スル

舊朝鮮農地開發債券ヲ償還スベシ

第二十四條 朝鮮農地開發營團ニ於テ朝鮮農地開發債

券ヲ發行セントスルトキハ朝鮮總督ノ認可ヲ受クベ

シ

第二十五條 朝鮮農地開發債券ノ消滅時効ハ元金ニ在

リテハ十五年、利子ニ在リテハ五年ヲ以テ完成ス

第二十六條 朝鮮農地開發債券ノ所有者ハ朝鮮農地開

發營團ノ財産ニ付他ノ債權者ニ先テ自己ノ債權ノ

辨濟ヲ受クル權利ヲ有ス

前項ノ規定ハ朝鮮民事令ニ於テ依ルコトヲ定メタル

民法ノ一般ノ先取特權ノ行使ヲ妨グルコトナシ

第二十七條 朝鮮所得稅令及朝鮮資本利子稅令中國債

以外ノ公債ニ關スル規定ハ朝鮮農地開發債券ニ之ヲ

準用ス

第二十八條 第二十一條乃至前條ニ規定スルモノヲ除

クノ外朝鮮農地開發債券ニ關シ必要ナル事項ハ朝鮮

總督之ヲ定ム

第二十九條 朝鮮農地開發營團ノ事業年度ハ毎年四月

ヨリ翌年三月迄トス

第三十條 朝鮮農地開發營團ハ設立ノ時及毎事業年度

ノ初ニ於テ財産目錄、貸借對照表及損益計算書ヲ作

成シ定款ト共ニ之ヲ各事務所ニ備置クコトヲ要ス

債權者ハ業務時間内何時ニテモ前項ニ掲グル書類ノ

閱覽ヲ求ムルコトヲ得

第三十一條 剩餘金ノ處分ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

第三十二條 朝鮮農地開發營團ハ其ノ資本金額ノ四分ノ一ニ達スル迄ハ每事業年度ニ於テ準備金トシテ剩餘金ノ百分ノ八以上ヲ積立ツベシ
前項ノ準備金ハ朝鮮總督ノ定ムル場合ヲ除クノ外之ヲ使用スルコトヲ得ズ

第三十三條 朝鮮農地開發營團ハ拂込ミタル出資金額ニ對シ朝鮮總督ノ定ムル割合ヲ超エテ剩餘金ノ配當ヲ爲スコトヲ得ズ

朝鮮農地開發營團ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ政府ノ出資ニ雖シ剩餘金ノ配當ヲ規程シ又ハ之ヲ爲サザルコトヲ得

第三十四條 朝鮮農地開發營團ハ朝鮮總督之ヲ監督ス
第三十五條 朝鮮總督ハ朝鮮農地開發營團ニ對シ業務及財産ノ狀況ニ關シ報告ヲ爲サシメ、檢査ヲ爲シ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第三十六條 朝鮮總督ハ朝鮮農地開發營團監理官ヲ置キ朝鮮農地開發營團ノ業務ヲ監視セシム
朝鮮農地開發營團監理官ハ何時ニテモ朝鮮農地開發營團ノ業務及財産ノ狀況ヲ檢査スルコトヲ得

朝鮮農地開發營團監理官ハ必要アリト認ムルトキハ何時ニテモ朝鮮農地開發營團ニ命ジ業務及財産ノ狀況ヲ報告セシムルコトヲ得

朝鮮農地開發營團監理官ハ朝鮮農地開發營團ノ諸般ノ會議ニ出席シ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第三十七條 理事長、副理事長、理事又ハ監事ガ法令、定款若ハ朝鮮總督ノ命令ニ違反シ又ハ公益ヲ害スル

行爲ヲ爲シタルトキハ朝鮮總督ハ之ヲ解任スルコトヲ得

第三十八條 土地ノ農業上ノ利用ヲ増進スル目的ヲ以テ朝鮮農地開發營團ガ朝鮮總督ノ定ムル區域及計畫ニ依リ行フ左ノ各號ノ一ニ該當スル事業（以下農地開發事業ト稱ス）ハ第三十九條乃至第五十二條ノ定ムル所ニ依ル

一 他人ノ所有ニ係ル農地又ハ農耕ニ適スル土地ノ改良ヲ目的トスル農業水利施設ノ新設、廢止又ハ變更

二 前號ニ該當スルモノヲ除クノ外朝鮮土地改良令ニ定ムル土地改良トシテ行フコトヲ得ル事業
他人ガ農業上ノ利用ノ目的ヲ以テ公有水面埋立ノ免許ヲ受ケタル公有水面ハ前項第一號ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ他人ノ所有ニ係ル農地又ハ農耕ニ適スル土地ト看做ス

第三十九條 朝鮮總督前條第一項ノ區域及計畫ヲ定メタルトキハ之ヲ朝鮮農地開發營團ニ通知ス
第四十條 朝鮮農地開發營團ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ豫メ農地開發事業ノ施行地區及實施計畫ヲ定メ朝鮮總督ノ認可ヲ受クベシ

第三十八條第一項第一號ノ農地開發事業ニ付前項ノ認可ノ申請アリタルトキハ朝鮮總督ハ其ノ定ムル所ニ依リ其ノ旨ヲ告示シ二十日以上ノ相當ノ期間ヲ定メ其ノ期間内實施計畫書ノ寫ヲ施行地區内ノ土地ノ所有者其ノ他ノ利害關係人ノ縦覽ニ供スベシ

前項ノ土地ノ所有者其ノ他ノ利害關係人實施計畫書ニ記載セラレタル事項ニ關シ異議アルトキハ前項ニ掲グル期間内ニ朝鮮總督ニ之ヲ申出ヅルコトヲ得

朝鮮總督異議ヲ正當ト認ムルトキハ當該事項ニ付變更ヲ加ヘテ認可ヲ爲スコトヲ得

朝鮮總督第三十八條第一項第一號ノ農地開發事業ニ付第一項ノ認可ヲ爲シタルトキハ其ノ定ムル所ニ依リ其ノ旨ヲ告示ス

第四十一條 國有地、官ノ用ニ供スル土地其ノ他朝鮮總督ノ定ムル土地ハ農地開發事業ノ施行地區ニ之ヲ編入スルコトヲ得ズ但シ朝鮮總督ノ定ムル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第四十二條 土地改良施行地ハ之ヲ農地開發事業ノ施行地區ニ編入スルコトヲ得ズ但シ朝鮮總督ノ定ムル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

前項但書ノ場合ニ於テ必要ナル事項ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第四十三條 朝鮮農地開發營團他人ノ所有ニ係ル土地又ハ他人ガ公有水面埋立ノ免許ヲ受ケタル公有水面ヲ第三十八條第一項第二號ノ農地開發事業ノ施行地區ニ編入セントスルトキハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ土地ノ所有者又ハ公有水面埋立ノ免許ヲ受ケタル者ノ同意ヲ得ベシ

第四十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル土地ハ朝鮮農地開發營團之ヲ收用スルコトヲ得

一 農地ノ造成ニ供スル未墾地
二 農地ノ造成ニ供スル未墾地又ハ公有水面附近ノ土地ニシテ當該未墾地又ハ公有水面ト併セテ第三十八條第一項第二號ノ農地開發事業ヲ施行スルヲ必要トスル土地

左ノ各號ノ一ニ該當スル土地ハ朝鮮農地開發營團之ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得

一 前項ニ掲グル土地ノ開發ノ爲必要ナル土地
 二 前項ニ掲グルモノヲ除クノ外農業水利施設ノ新設、廢止及變更ノ爲必要ナル土地
 前二項ノ規定ニ依ル收用又ハ使用ニ關シテハ土地收用令ヲ適用ス

第一項第二號ノ規定ニ依リ收用シタル土地ノ管理及處分ニ關シ必要ナル事項ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第四十五條 前條第二項及第三項ノ規定ハ水ノ使用ニ關スル權利、土地ニ定著スル物件又ハ土地ニ屬スル土石砂礫ノ收用又ハ使用ニ之ヲ准用ス

第四十六條 朝鮮總督ハ其ノ定ムル所ニ依リ第三十八條第一項第一號ノ農地開發事業ニ因リ利益ヲ受ケタル者ニ對シ現ニ受クル利益ノ限度ニ於テ其ノ事業ノ施行ニ要シタル費用ノ一部ヲ朝鮮農地開發營團ニ支拂フベキコトヲ命ズルコトヲ得

前項ノ命令ヲ受ケタル者之ニ異議アルトキハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ朝鮮總督ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第四十七條 前條ノ規定ニ依リ費用ノ支拂ヲ命ゼラレタル者其ノ支拂ノ義務ヲ履行セザルトキハ府邑面ハ朝鮮農地開發營團ノ請求ニ因リ賦稅ノ例ニ依リ之ヲ處分ス

前項ノ場合ニ於テハ朝鮮農地開發營團ハ其ノ徵收金額ノ百分ノ四ニ相當スル金額ヲ府邑面ニ交付スベシ

第一項ノ規定ニ依ル徵收金ノ先取特權ノ順位ハ府邑面ノ徵收金ニ次ギ其ノ時効ニ付テハ國稅ノ例ニ依ル

第四十八條 農地開發事業ノ工事竣功シタルトキハ朝鮮農地開發營團ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ朝鮮總督ニ竣功認可ヲ申請スベシ

第四十九條 第四十四條第一項第二號ノ規定ニ依リ收用シタル土地ヲ除クノ外第三十八條第一項第二號ノ農地開發事業ニ依リ造成セラレタル農地ニシテ朝鮮農地開發營團ノ所有ニ係ルモノノ管理及處分ニ關シ必要ナル事項ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第五十條 農地開發事業ノ施行ニ因リ生ジタル道路、堤塘、溝渠溜池、等ハ朝鮮農地開發營團朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ道、府邑面、水利組合其ノ他朝鮮總督ノ定ムル者ニ之ヲ引渡スベシ

前項ノ場合ニ於テハ道、府邑面、水利組合其ノ他朝鮮總督ノ定ムル者ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ前項ニ掲グル設備ノ引渡ヲ受ケ之ヲ維持管理スベシ

第五十一條 朝鮮土地改良令第十二條乃至第十五條、第十七條乃至第二十一條、第二十九條、第三十條第一項第二項、第三十一條乃至第三十三條、第三十四條第二項第三項、第三十五條乃至第三十八條、第四十六條及第四十七條ノ規定ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ第三十八條第一項第一號ノ農地開發事業ニ之ヲ准用ス

第五十二條 本令ニ規定スルモノヲ除クノ外農地開發事業ニ關シ必要ナル事項ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第五十三條 朝鮮農地開發營團ノ理事長、副理事長、理事、監事又ハ使用人其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求シ若ハ約束シタルトキハ二年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲サザルトキハ三年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハザルトキハ其ノ價額ヲ追徵ス

第五十四條 前條第一項ニ掲グル者ニ賄賂ヲ交付シ又ハ之ヲ提供シ若ハ約束シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕シ又ハ免除スルコトヲ得

第五十五條 朝鮮農地開發營團本令若ハ本令ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ理事長又ハ理事長ノ職務ヲ行ヒ若ハ代理スル副理事長ヲ五千圓以下ノ過料ニ處ス副理事長又ハ理事ノ分掌業務ニ係ルトキハ副理事長又ハ理事ヲ過料ニ處スルコト亦同ジ

第五十六條 朝鮮農地ノ開發營團ノ理事長、副理事長又ハ業務ヲ分掌スル理事第十八條ノ規定ニ違反シ他ノ職業ニ從事シタルトキハ千圓以下ノ過料ニ處ス

第五十七條 第十三條ノ規定ニ違反シ朝鮮農地開發營團又ハ之ニ類似スル名稱ヲ用ヒタル者ハ千圓以下ノ過料ニ處ス

附則

第五十八條 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第五十九條 朝鮮總督ハ設立委員ヲ命ジ朝鮮農地開發營團ノ設立ニ關スル事務ヲ處理セシム

第六十條 設立委員ハ定款ヲ作成シ朝鮮總督ノ認可ヲ受クベシ

前項ノ認可アリタルトキハ設立委員ハ出資者ヲ募集スベシ

第六十一條 設立委員ハ出資者ノ募集ヲ終リタルトキハ出資申込書ヲ朝鮮總督ニ提出シ設立ノ認可ヲ申請スベシ

前項ノ認可ヲ受ケタルトキハ設立委員ハ遲滞ナク出資第一回ノ拂込ヲ爲サシムルモトヲ要ス

第六十二條 既に第一回ノ拂込完了シタルトキハ出資者ノ總會ヲ召集スベシ

前項ノ總會終結シタルトキハ設立委員ハ遲滞ナク其ノ事務ヲ朝鮮農地開發營團理事長ニ引渡スベシ

理事長前項ノ事務ノ引渡ヲ受ケタルトキハ理事長、副理事長、理事及監事ノ全員ハ主タル事務所ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スベシ

朝鮮農地開發營團ハ設立ノ登記ヲ爲スニ因リテ成立ス

第六十三條 本令ニ規定スルモノヲ除クノ外朝鮮農地開發營團ノ設立ニ關シ必要ナル事項ハ朝鮮總督之ヲ定ム

第六十四條 朝鮮所得稅令中左ノ通改正ス

第二十七條ノ八中「朝鮮鑛業振興株式會社」ノ上ニ「朝鮮農地開發營團及」ヲ加フ

第六十五條 朝鮮登錄稅令中左ノ通改正ス

第三條ノ三ヲ第三條ノ四トス

第三條ノ三 朝鮮農地開發營團カ朝鮮農地開發債券ニ付登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

一 朝鮮農地開發債券ノ拂込

拂込金額 千分ノ一

二 登記事項ノ變更、消滅又ハ廢止

每一件 五圓

從タル事務所ノ所在地ニ於テ前項各號ノ登記ヲ受クルトキハ每一件一圓五十錢ノ登錄稅ヲ納ムヘシ

第七條第七號中「朝鮮住宅營團」ノ下ニ「朝鮮農地開發營團」ヲ加ヘ「恩給金庫法」ノ下ニ「朝鮮農地開發債券」ヲ加ヘ「恩給金庫法」ハ朝鮮金融組合會令ヲ「恩給金庫法、朝鮮農地開發營團令又ハ朝鮮金融組合聯合會令」ニ改ム

發營團」ヲ、「朝鮮住宅營團令」ノ下ニ「朝鮮農地開發營團令」ヲ、「恩給債券」ノ下ニ「朝鮮農地開發債券」ヲ加ヘ「恩給金庫法」ハ朝鮮金融組合會令ヲ「恩給金庫法、朝鮮農地開發營團令又ハ朝鮮金融組合聯合會令」ニ改ム

同條第十四號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

十四ノ二 朝鮮農地開發營團カ農地開發事業ノ爲ニスル土地ノ權利ノ取得又ハ所有權ノ保存ノ登記

第六十六條 印紙稅令中左ノ通改正ス

第一條第二項但書中「朝鮮金融組合聯合會」ノ下ニ「農地開發營團」アルハ「朝鮮農地開發營團」ヲ加フ

學年短縮に關する中等學校令及諸學校令中改正の件等の公布

人口問題上關心の渺くない修學年限の短縮をその一部とする中等學校令及其他の諸學校令中改正の件等は昭和十八年一月二十一日付官報を以て左の如く公布せられたが、之により中等學校に於いては一年、高等學校高等科及び大學豫科に於いては一年、通計二箇年の短縮が實施せらるゝに至つた。

中等學校令 (昭和十八年一月二十日勅令第三十六號)

第一條 中等學校ハ皇國ノ道ニ則リテ高等普通教育又ハ實業教育ヲ施シ國民ノ鍊成ヲ爲スヲ以テ目的トス

第二條 中等學校ヲ分チテ中學校、高等女學校及實業學校トス

中學校ニ於テハ男子ニ、高等女學校ニ於テハ女子ニ高等普通教育ヲ施シ實業學校ニ於テハ實業教育ヲ施

スモノトス

實業學校ノ種類ハ農業學校、工業學校、商業學校、商船學校、水産學校、拓殖學校其ノ他實業教育ヲ施ス學校トス

第三條 北海道及府縣ハ中學校、高等女學校及實業學校ヲ設置スベシ

文部大臣ハ北海道及府縣ニ對シ中等學校ノ増設、擴張及整理ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

前二項ノ中等學校ノ經費ハ北海道地方費又ハ府縣ノ負擔トス

第四條 市町村、市町村學校組合、町村學校組合及町村制ヲ施行セザル地域ニ於ケル此等ニ準ズベキモノハ土地ノ情況ニ依リ須要ニシテ其ノ區域内ノ義務教育ノ施設上妨ナキ場合ニ限り中等學校ヲ設置スルコトヲ得

第五條 私人ハ中等學校ヲ設置スルコトヲ得

商工會議所、農會其ノ他之ニ準ズベキ公共團體ハ實業學校ヲ設置スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ設置シタル實業學校ハ私立トス

第六條 公立及私立ノ中等學校ノ設置及廢止ハ文部大臣ノ認可ヲ受クベシ

前項ノ中等學校ノ設置及廢止ニ關スル規程ハ文部大臣之ヲ定ム

第七條 中等學校ノ修業年限ハ四年トス但シ土地ノ狀況ニ依リ高等女學校ニ在リテハ二年、實業學校ニ在リテハ男子ニ付テハ三年、女子ニ付テハ二年ト爲スコトヲ得

第八條 中等學校ニ入學スルコトヲ得ル者ハ修業年限四年ノ課程ニ在リテハ國民學校初等科ヲ修了シタル